株式会社 日新

●合板製造販売業

07
LEADING COMPANY

高品質な合板の開発・製造通じて「木」のある暮らしをサポート

合板の国内シェア約30％を誇る《日新グループ》の中で、合板の企画・製造・販売の中心的役割を担うのが《株式会社日新》だ。北関東から沖縄まで全国各地に合板を出荷している。

全国6工場で多彩な合板製造 自社バース竣工で生産性向上

原木を薄く削った単板を乾燥させ、接着剤で重ね貼り合わせる合板。各種加工技術で木材の欠点を克服した「エンジニアリングウッド」の一つで、環境に配慮した建材としても高く評価されている。佐藤一郎社長(64)は、「数あるエンジニアリングウッドの中でも生産性、使用効率性が非常に優れているのが合板です。耐震性も高く、地震国ニッポンにおいてはさらなる活用が期待されるアイテムなのです」と胸を張る。

山陰で4工場を稼働するほか、三重や徳島にも自社工場を持つ。特徴的なのが境港市にある本社工場と、紀伊半島にある三重工場だ。本社工場では、全国に4台しかない特殊ロータリーレースを持ち、顧客のニーズに合わせたサイズの製品づくりに力を入れている。また、国産材の活用を推進する日新グループでは現在国産材使用率が約80％に上るが、三重工場では100％を実現。グループの姿勢を象徴する工場となっている。

原料調達は基本的に各工場周辺で行うが、不足分は航路で納入。よりスムーズな搬入を狙って2023年5月、第三工場裏の中海岸壁に500トン規模の船が着岸できる自社バースを竣工した。着岸から荷卸しまでの時間が約半分になり、生産効率性がより高まった。

「家の主軸は、柱と梁。それらが骨だとすれば、合板は皮膚。住宅に欠かせないアイテムの一つです。しかし大工など職人の数が減少する中、骨のような役割を果たす新しい合板の研究も進めています」と佐藤社長。業界をリードする日新に、今後も目が離せない。

1 2024年10月、新たに単身者用の社宅を建設（積水ハウス・シャーメゾン）。社宅内にはラウンジやBBQが可能なテラスも完備し、社員同士のコミュニケーション促進にも一役買っている 2 第三工場の裏に完成した自社バース 3 社宅は日新本社の近所で、徒歩で通勤できる好立地だ 4 全36部屋のうち6部屋は女性専用で、全体のエントランスとは別にオートロックのエントランスを設置。防犯にも配慮している 5 製品サイズに切り揃えられた原木はまず、大根の桂むきのように厚さ数ミリの単板に削られる 6 社宅は1LDKで、サンルームやウォークインクローゼット完備。社員は格安の家賃で入居することができる 7 日新では、構造用合板はもちろんフロアー台板や塗装型枠用合板などさまざまな種類を製造。そのサイズや厚みも多岐にわたる 8 「合板の利活用で耐震性を強化できる。地震国ニッポンではもっと活用してほしい」と話す佐藤社長

各工場の若手社員が語る“日新の魅力”

（左）3課 麻野 稜さん(20)
（右）1課 中村 璃央さん(20)

【本社工場】西日本で業界最大シェア。多種類の合板を製造

長尺針葉樹合板の製造を主力とし、最新鋭の機械設備を誇る本社工場。1課の中村さんは、4メートルの原木を10数種類に上る切削サイズに合わせて長さを揃え、切削機に入れる。「ミスもしますが、僕が原因や対処方法を理解するまで先輩たちが丁寧に教えてくれるので前向きに取り組めます」と笑顔を見せる。勤務日は年間でスケジュールが決まっているが、柔軟に変更してもらえる点も気に入っている。

3課の麻野さんは、製造現場の中で最も手作業が多い工程に携わる。接着剤が塗布された単板に他の単板を重ねた合板を、多いものでは120枚まとめて仮プレスを行う。「定規板で揃えるとはいえ、ずれないように合わせるのは大変です」。旅行先では顧客のハウスメーカーの名を見ることが多く、「誇らしいです」と話す。

乾燥課
小池 琉可さん(20)

【第二工場】単板の状態や天候に応じて、ドライヤーを調整

切削工程を持たない第二工場では、生単板をドライヤーで乾かす乾燥の工程からスタートする。小池さんは単板が積み上げられた山の前に立ち、板の状態をチェックしつつ、ドライヤーに板を差し込む。乾燥自体は機械が行うが、水分の多い板ははがれにくく、作業者の存在が欠かせない。「単板の厚みは1.7ミリから4.4ミリまでさまざまで、この厚さや工場内の温度や湿度によって乾くスピードは変わってきます。できあがりの状態に応じ、僕らが機械の設定を変える必要があるんです」と説明する。

資源を無駄なく活用するため、規定のサイズに満たない単板を貼り合わる補修機の操作も担当。入社後に取得したフォークリフトの免許を生かし、今後は単板の運搬作業にも携わりたいと考えている。

（左）4課 高橋 雅也さん(21)
（右）3課 加藤 蓮太さん(21)

【第三工場】社員への還元が、合板製造のモチベーションに

第三工場では、山陰各工場への単板提供を主力としつつ、合板も製造する。3課の加藤さんは、単板に接着剤を塗布して重ね合わせた合板をまとめてプレスする工程を担当。「2分以内にずれなくプレスしなければ、接着剤がはがれて不良品に。スピードと品質の両方に気を遣っています」。完成した合板を既定のサイズに切断し、できあがりを検品・出荷するのが高橋さん所属の4課。「欠けや割れなどのある品物をお客様に届ければ迷惑がかかり、当社の信用も失います。製造現場の最後の砦という意識で厳しくチェックしています」

給与の高さに惹かれて入社したという2人。「高品質の製品を効率的に作ることで会社の売り上げが上がれば、賞与で還元されるのでモチベーションが上がります」

（左）2課 冨田 将樹さん(21)
（右）1課 門脇 匠汰さん(20)

【湖北工場】フロアー合板を主力に、各課が連携して効率よく生産

フロアー合板製造を主力とする湖北工場。1課の門脇さんは、1日約2500本の原木を切削機で薄く削り、厚さ数ミリの単板をつくり出していく。「合板製造のスタートライン。状態の良くない丸太を目視で確認して取り除き、後の工程に響かないよう注意しています」。薄く削られた単板は、冨田さんら2課の乾燥工程へ。「当工場のメインは厚み9.1ミリのフロアー合板と、12ミリ、24ミリの一般合板。それぞれ構成が違うので、後工程の3課と連絡を取り合い、急ぐ製品から乾燥作業を行います」。今春から副班長になり、実務だけでなく工程やシフトなどの管理作業も担うようになった。

年3回支給の賞与が日々の励みに。門脇さんは家族や友人との県外旅行が増え、冨田さんは高級車購入のため貯金に励んでいる。

1 木を効果的に活用した明るく開放的な本社事務所 2 2021年7月に完成した休憩所。1階は木のぬくもりを感じられる開放的な食堂。軽食やドリンクの販売機が備えられている 3 休憩所2階にある個室ブース。半個室に仕切られているため、人の目を気にせずにリラックスでき、仮眠を取るのにも最適

評価も成長も、“見える化”する

働きやすさも配慮しつつ高品質な合板を安定製造

西日本で業界最大シェアを誇るには理由がある。その一つが製造工程をリアルタイムで数値管理していることだ。目標の生産量や歩留まりなどに対する達成感がすぐに可視化されるため、結果へのアプローチも即座に行え、生産効率に対する社員の意識も向上。「極端に数字が低い時は機器のトラブルが影響している可能性もあります。即対応のメリットが大きい」と佐藤社長。もちろん数字だけを追いかけるのではない。

製造現場では、旧来型の「背中を見て学べ」ではなく一定程度のマニュアル化と従業員のマルチスキル化を推進し、組織の柔軟性を向上させている。2023年から人事評価制度を見直し、社員の実績や貢献度を規定項目について評価する考課者の教育にも注力している。

従業員の意見を取り入れた福利厚生も社内から評価が高い。各工場の休憩室のリニューアルを進め、24年には新たに単身者用社宅を新設。年間休日は117日に増え、ベースアップも実現している。

働くモチベーションは、給料や評価、休暇など人によって違う。しかし良い製品を生み出そうとする想いは、仕事や会社に持つ誇りが大きなウエイトを占めるのかもしれない。当社は業界で唯一、JASシステムA認定工場として、高品質な合板を安定的に製造。トレーサビリティシステムや新製品開発にも力を入れる。自社プロダクトへの自信は、働く人を輝かせる。

株式会社 日新
NISSHIN

株式会社 日新

創　業　平成10（1998）年9月24日
代表者　代表取締役　佐藤 一郎
社員数　552名（男523名　女29名）
本　社　鳥取県境港市西工業団地100

事業内容
合板の製造・販売事業

勤務地（採用エリア）
境港市、松江市

採用区分
新卒採用　キャリア採用

インターンシップ・キャリア
有　日新グループとして1日・5日・Webの3種を実施。詳細や申込はマイナビ・リクナビから。

採用担当者からあなたへ

福利厚生や社内制度の見直しなど、積極的に「働きやすい職場」づくりを進めています。熱意があれば経験や技能は問いません。素直に頑張れる方をお待ちしています。私たちと一緒に日新を盛り上げていきましょう！

人事部 部長
山根 正広さん

採用に関するお問い合わせ先
0859-47-0303

公式サイトはこちら　リクナビはこちら　マイナビはこちら